

協働 ツルのすみやすい環境、できてます！
連携 四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)～中山地区整備状況～

国土交通省中村河川国道事務所では、平成18年度から四万十川の支川中筋川流域の中山地区(四万十市)で、「ツルの里づくり」の整備を進めてきました。その工事も平成19年11月に無事完了し、ねぐらとえさ場が揃ったツルが過ごしやすい環境が創出されました。今季からいつでもツルを迎えることができる状態になった中山地区。四万十川流域での「ツルの里づくり」



整備のポイント

- **ねぐら**：ツルは寝る時に5～10cmの水深が必要です。川の水量の変動に応じて、3段階の高さでねぐらを整備しました。
- **えさ場**：もみ撒きを行い稲が育つゾーンと、湿地・たまりを創出しえさとなる水生昆虫や魚類が生息できる環境を造りました。
- **外敵侵入防止水路**：ツルを襲う野犬などが入って来ないように、水路部分を設けました。

の取り組みは、地域住民と行政との協働のよい事例として、新聞などさまざまなメディアに取り上げられています。



えさ場でのもみ撒き風景



えさ場にはデコイ(ツルを呼び寄せるための等身大模型)も設置



広々とした湿地・たまりが完成

原色 ツル図鑑 3

四万十川(中筋川)流域では、マナヅル、ナベヅル、アネハヅル、カナダヅル、タンチョウ、ナベグロが確認されています。これらをシリーズで詳しくご紹介します。



アネハヅル [姉羽鶴、学名 *Anthropoides virgo*]

分類／鳥綱ツル目ツル科

分布／ヨーロッパ南東部・ユーラシア大陸中央部・アフリカ北西部のモロッコなどで繁殖し、インド北部・中国・ミャンマー・アフリカ北部で越冬します。

すがた／全長約95cmとツルの仲間でも最も小型。頭には灰色の毛があり、目の後方には白い房状の長い飾り羽根を持ち、頭から背は青みがかった灰色、顔からのど、頸、胸は黒っぽく、胸の羽毛は垂れ下がっています。

生態／アネハヅルは、平地から山地の平坦な草原地域に生息します。ヒマラヤの8,000m級の山々を越えて「渡り」(季節ごとにある場所から違う場所へと移動すること)をするツルとしても有名です。日本にはまれに迷鳥として6月に記録が多いです。

※参考：
鶴いこいの里(山口県周南市八代) <http://www.city.shunan.lg.jp/hp/turu/turu/turuall/tualfr06.html>
「アネハヅル」『フリー百科事典 ウィキペディア (Wikipedia) 日本語版』2008年1月22日(火) 03:45 UTC. <http://ja.wikipedia.org/>

ツルを見かけたら

お願い



四万十川(中筋川)流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel:0880-34-4333 / fax:0880-34-1451
mail:naka10@cciweb.or.jp

四 万 十



つ る だ よ り

四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

Vol.3

●発行日／平成20年3月25日 ●発行／四万十つるの里づくりの会
<http://www.shimanto-tsuru.com>

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏(野生生物環境研究センター所長)よりご提供いただいております。

平成19年度はたくさんのツルが訪れました！



仲良く行動する2羽のナベヅル

四万十つるの里づくりの会では、幡多地域の愛鳥家とともに、毎年四万十川とその支川の中筋川流域に飛来したツルの行動を観察する調査を行っています。

平成18年度は飛来数が非常に少なく、60羽程度しか確認されませんでした。が、今季(平成19年度)は11月頃から続々とツルが訪れ、120羽ほどの飛来が確認されました。このほか香南市や中土佐町などにも飛来しています。

ツルの行動を調べてみると、宿毛市平田や四万十市有岡、愛媛県西予市などで数日間に交互に確認されるなど、幡多地域と西予市あたりを行き来していることがわかりました。また、今季は家族連れでの飛来が非常に多く見られました。家族連れが越冬すると、その翌年には8～9割の確率でまた訪れるとのことで、当地での越冬への期待が高まりました。しかし、残念ながら、越冬は確認できませんでした。

ですが、今季飛来数が増えたことは、私たちの地元での地道な取り組みが実を結びつつあることのあらわれではないでしょうか。来季への期待を込めて、平成20年度も「ツルの里づくり」に尽力したいものです。



ナベヅルの親子(右端の少し色が違うものが幼鳥)



中筋川上空を羽ばたくツル

※写真はいずれも平成19年度に撮影されたものです(澤田佳長氏提供)。